

はじめに

みなさんこんにちは。私は名古屋にある南医療生活協同組合総合病院南生協病院で小児科をしている鬼頭正夫と申します。医師になってほぼ30年になります。この間、救急医療にはかなりこだわりをもってきました。その原点は沖縄県立中部病院時代にさかのぼります。3日に1度の当直では眠った記憶がありません。当時の部長の安次嶺馨先生には医師としてまた人間的にも魅力を感じ、多くのことを教えていただきました。また、Dr. Talwakar はハワイ大学の中部病院専任の教授で、総回診とレジデントの回診についていただき、その知識の豊富さに圧倒されました。病院には、重症患児や国試に出るような珍しい患児が次々と受診され、貴重な経験をさせていただきました。中部病院でアメリカ式の救急医療と医学教育を学べたことは、私の医師人生にとって大きな宝になりました。

その後、故郷である名古屋に戻ってからも、救急医療にはとりわけ興味をもち続け、重症患者が搬送される度、先頭に立って診療をしてきました。しかし、45歳を過ぎるあたりから、体力にかけりが生じ、もう自分がバリバリやる峠は越えたのかなと感じ始めました。おりしも小児科医不足、小児救急の問題がマスコミでも取りざたされはじめ、せめてこれまでの知識と経験を次代を担う若い医師たちに伝えておかなければと感じるようになったことが執筆を始めたきっかけとなりました。

救急外来では小児の受診が多数を占め、小児科は、救急外来の現場で非常に重要な位置を占めます。つまり、小児がみられればかなりゆとりを持って救急外来を行うことができるのです。しかし一方で、小児科医以外で自信をもって小児を診療できる先生方は少ないのではないのでしょうか。そこで、そういう方々のために、小児救急の現場で実践的に使えることを執筆の目的といたしました。

また、執筆を進めていくなかで、どうせならば親しみやすく、楽しく読める方が良いと思い、昔から興味をもっていた忍者・忍術にこだわってみました。

ころ、最終的に小児救急に必須の項目を『いが (伊賀) +いろは 48 文字 (「ん」を除く 47 文字)、合わせて 49 (至急) 項目の秘傳』にまとめることができました。

本書はこの 49 項目を五十音から系統的な分類へ並び替えた全 4 章で構成されています。第 1 章は「小児救急の基礎」です。小児救急の心構えや、診察法、検査手技など基礎項目を解説します。第 2 章の「症候・事故」では、けいれん、意識障害、不慮の事故、天災などの対応をフローチャートを使い解説します。第 3 章の「疾患各論」では小児救急の代表的疾患を解説します。第 4 章は「小児救急のレベルアップ」です。リスクマネジメント、ロールプレイングなどを解説します。本書は学会・厚生労働省研究班の診断・治療ガイドラインに基づき記載し、現場で使える実践的内容となっています。

また各項目ごとに、EBM はなくても臨床経験上重要なポイントを「極意」として記載しています。さらに医学のこぼれ話として「いっぶく」をいれてます。ときどき休憩しながら勉強してください。付録の「小児救急 秘傳之巻」には小児救急のエッセンスをまとめました。

私の経験が、小児救急にたずさわってくださる先生方のお役に立てれば幸いに存じます。本書を通して、小児科・小児救急に興味を感じていただける医師が 1 人でも増えることを願っています。

出版にあたって、沖縄県立中部病院時代にご指導いただいた元沖縄県立中部病院院長 安次嶺馨氏、Dr.Talwakar に深謝いたします。

羊土社の皆様、特に中林雄高様、森 悠美様には出版にあたりお世話になりました。ありがとうございました。

2011 年 5 月

南医療生活協同組合総合病院南生協病院小児科
鬼頭 正夫